

2023 年度  
令和 5 年度  
事業報告書

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

## 2023 年度 事業 報告

### I. 事業の状況

2023 年度の事業計画に従い「助ける」「集める」「広める」事業を行った。研究者・学生の調査研究活動は徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあり、概ね順調に実施され、イベントも実施した。

#### 1. 「助ける」研究助成事業

2023 年度の研究助成応募数 84 課題（個別研究 58、育成研究 26）から、採択した 12 課題（個別研究 8、育成研究 4）、および育成研究 2 年目の 3 件に対して 4 月中旬、助成金 12,573,000 円を交付した。これによりこれまでに助成した課題数は 279 課題、助成金額の累計は 291,352,000 円となった。

上記課題はおおむね順調に研究を進めた。育成 1 件については、報告書および 2 年目の申請が提出されなかったため、助成交付を見送った。

専門委員のもとで、これまでに行ってきた審査結果通知への専門委員評価コメント付記等、積極的に応募の質と量を向上させる取り組みを引き続き行った。これにより、近年では申請書の質が向上しつつある。報告書についても同様にコメントの通知等を行った。

#### 2. 「集める」研究情報・資料・論文の収集、図書の交換、学会の聴講等

##### (1) 軟体動物後鰓類(ウミウシ類)を中心とする水棲の無脊椎動物に関する研究

情報と画像等、近年出版された研究情報や論文などを収集した。今年度は、茨城県でウミウシ類やヒラムシ類を中心に撮影、有明海でのシオマネキやチゴガニ等の動画を撮影した。これまでに撮影した画像の整理と同定を進め、一部はウェブサイトの図鑑にアップした。

また、継続している、茨城県ひたちなか市の調査によって、生物分布情報を収集した。現在、茨城県自然博物館と出版物を準備中である。

##### (2) 資料・論文の収集と保管

出版された論文や本を収集し保管した。現在、文献データベースも更新を進めている。

##### (3) 学会等の聴講

水棲の無脊椎動物全般の研究情報を収集するため、以下の学会年会、シンポジウムおよび講演会に参加し、情報を収集した。

日本貝類学会、日本生物地理学会、日本動物学会山形大会、日本魚類学会、第 23 回日本分類学会連合公開シンポジウム、第 15 回藤原ナチュラルヒストリーオンラインシンポジウム、第 10 回水族館シンポジウム。

その他、オンライン研究会などに参加した。

一部、対面開催が再開された学会もあるものの、新型コロナウイルス感染

症対策のため、オンライン形式で開催される学会・研究会もあり、遠方で参加しにくいシンポジウムや研究会等にも参加することができた。新しい研究情報を得て、そのうちのいくつかについて「うみうし通信」に執筆依頼し、掲載した。

### 3. 「広める」研究情報や海の無脊椎動物の知識を普及啓発すること

#### (1) 機関誌「うみうし通信」の発行

当財団の機関誌であり、博物館・研究所等との交換図書にもなっている。今年度は No. 119～No. 122 までの 4 号を発行した。

印刷部数は 1,000 部、配布部数は約 700 部、うち、有料配布は「うみうしくらぶ」会員。無料配布は、国会図書館、官公庁、試験研究機関、博物館、水族館、大学などの図書交換先、および寄付者、財団賛助会員、財団関係者などである。

また、情報をより一般にも広めるため、著者の同意が得られ、発行後 1 年が経過したバックナンバーを、財団 WEB サイトで公開している。今年度は No. 115～118 を公開した。

#### (2) 「うみうしくらぶ」会員および財団賛助会員の維持と発展

うみうしくらぶの期末会員数は 244 名。うち法人会員は 8 団体、個人会員 236 名となった(個人会員の新加入 10 名、退会 10 名、会費長期未納者 14 名、賛助会員への移行 3 名)。退会の理由は、退職や会員の逝去などが多かった。新入会も順調に続いており、うみうし通信のレイアウト刷新やホームページでのバックナンバーの公開、SNS による広報の効果などによるものと考えられる。新規入会には 10～20 代が 7 名、30～40 代が 2 名含まれ、若い世代の入会が続いている。

財団賛助会員は 2023 年度末に 30 名となった(うち新規登録が 3 名、うみうしくらぶ会員からの移行が 2 名)。

両会員の合計は 274 名(昨年より 4 名減)となり、会員数に大きな変動はなかった。

#### (3) 子供向けおよび大人向けの観察会の実施

2 つの観察会を計画したが、1 つは悪天候のため中止となった。

##### ① 「第 15 回親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」

6 月 3 日(土)に開催予定であったが、例年より早い台風の影響による大雨により、道路状況の悪化等も生じたことから、安全を考慮して中止の判断とした。

##### ② 大人向けの観察会「磯の観察会 in ひたちなか平磯海岸」

6 月 17 日(土)に茨城県ひたちなか市平磯海岸で実施した。磯の生物勉強会の日帰りイベントとして、観察会を行った。参加者は中学生以上で 26 名であった。この観察会は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、アクアワールド茨城県大洗水族館、地球レーベルとの共催および船の科学

館「海の学びミュージアムサポート」の特別協力により実施した。  
磯で採集をしたのち、各分類群の専門家が動物の解説を行った。  
また、希望者にはハマダンゴムシの観察もオプションとして行った。  
この観察会の報告をウェブサイトに掲載した。

(4) 財団 WEB サイトの拡充

WEB サイトにて 2023 年度研究助成採択課題および財団の情報公開をす  
みやかに行った。サイトコンテンツの更新を進め、うみうし通信の過去 P  
DF の順次公開や図鑑写真の見直しなどを進めた。

財団メーリングリストの運用を開始し、会員向けと非会員向け（イベ  
ント参加者と登録希望者）にイベント情報やその他情報の配信を開始し  
た。

(5) 生物分布情報の活用

財団が保管する生物の分布情報について、2020 年度より海洋研究開発  
機構（JAMSTEC）を窓口とする国連ユネスコ傘下の国際的なデータベース  
（OBIS）へのデータ提供を開始している。本年度もデータの整理と準備  
を行なった。次年度に登録を進める予定である。

(6) 財団 35 周年の記念事業について

35 周年記念グッズとして、ウミウシの缶バッジを作成し、イベントの参加  
者や申込者などに配布した。

(7) 他機関との協力

国立科学博物館企画展「知られざる海生無脊椎動物の世界」(2024.3.12～  
2024.6.16)での標本作成について特別協力した。【展示関連資料を同封】

## II. 財団の運営

### 1. 理事会

● 第 1 回理事会 2023 年 5 月 18 日

決議事項 ・ 2022 年度事業報告及び収支決算について

・ 定時評議員会の開催について

・ 評議員選定委員会 外部委員の委嘱について

報告事項 ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行の状況報告

・ その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる

理事 7 名全員からの同意および監事から異議が無かったの  
で理事会決議があったものとみなされた。

●第2回理事会 2024年3月11日

- 決議事項
- ・2023年度 事業計画及び収支予算
  - ・2023年度 研究助成課題の決定
  - ・評議員会の開催

- 報告事項
- ・代表理事及び業務執行理事の状況報告
  - ・その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる  
理事7名全員からの同意および監事から異議が無かったの  
で理事会決議があったものとみなされた。

2. 評議員会

●定時評議員会 2023年6月6日

- 決議事項
- ・2022年度事業報告及び収支決算の報告

決議

- ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決議事項を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

●第2回評議員会 2024年3月18日

- 決議事項
- ・2024年度事業計画及び収支予算

決議

- ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決議事項を可決する旨の評議員会があったものとみなされた。

3. 専門委員会

●第1回専門委員会 2023年8月24日

オフィス東京 C5 会議室

- 議 題
- 2024年度助成課題募集要項の決定
  - 延長課題および2022年度個別研究助成報告書の評価

●第2回専門委員会 2024年2月26日

オフィス東京 D 会議室

- 議 題
- 2024年度研究助成課題の審査
  - 理事会への推薦課題の決定

4. 事務的事項

1. 内閣府への提出と届出

2023年6月8日 「事業報告等の提出」電子申請  
2023年6月20日 理事等の変更届  
2024年3月25日 「事業計画書等に係る提出書」電子申請

2. 公告（情報公開）

HP上の「2022年度事業報告書」と「2023年度事業計画及び収支予算」を更新した。

3. 「広める」告知など

2023年度研究助成の採択課題をWEBサイトとうみうし通信No.119で公表した。また、研究助成やうみうし通信発行の告知等はSNS（ツイッターとFacebook）を活用して広報した。

4. 新型コロナウイルス感染症対策をきっかけとした新規取り組み

新型コロナウイルス感染症対策のため、財団事務局の運営もリモートワークに対応できるようクラウド等の活用を進めてきた。

2022年度に導入したグループウェアを活用し、電子による会計決裁が行えるよう整備し、より決裁の効率化を図ることができた。

5. 寄付金など

財団WEBサイト内に開設した「ご支援のお願い」サイトによって、寄付や賛助会員が増加しつつある。うみうし通信や会員向け書面での案内、SNSでのサイト紹介などの広報活動を行い、総額412,000円（前年度からは約1.5万円の減少）の寄付をいただいた（賛助会員の会費による寄付を含む）。継続的にご支援をいただけるような工夫をしたい。

2023年度は31名の個人から寄付をいただいた。皆様に謹んでお礼申し上げます（お名前は、ご承諾いただいた方のみ記載）。

小谷中 茂樹 様、石岡 宏子 様、ほか5名

[賛助会員] 青山 銀二 様、今野 誠一 様、小川 太遠 様、  
神尾 道也 様、河野 えり子 様、佐藤 正典 様、鈴木 美里 様、  
芹澤 和泉 様、竹中 伸也 様、田中 綾 様、田中 正則 様、  
西川 輝昭 様、本間 拓己 様、ほか13名